

「与論に関する講話」

与論中学校 2 年生



授業：総合的な学習の時間

令和 2 年度与論町海洋教育

03号

昨年度から与論町教育委員会では日本財団・東京大学海洋教育センター・笹川平和財団海洋政策研究所からの支援を受け海洋教育パイオニアスクールを導入しました。町内の小・中・高等学校が連携して行う「地域連携型」というスタイルで海を通じた学びの活動を行っています。与論町教育委員会を含め全国 10 の地域が「地域連携型」で海洋教育パイオニアスクールプログラムに参加しています。

6月30日、与論中学校2年生の「与論に関する講話」の授業を視察させていただきました。当日のゲスト講師はヨロン島観光協会の町岡安博さん、与論町役場産業振興課の境華子さんと市山太一朗さん、誇れるふるさとネットワークの池田龍介さんの4名。講話後には、生徒からの質問にも答えて下さいました。



講話の様子(誇れるふるさとネットワーク池田龍介さん)

ヨロン島観光協会の町岡さんのお話では与論島観光の歴史・魅力・傾向に加え、リピーターを増やすため、HPでお薦めコースや、目的別の特集を組むなど「ヨロンスタイル」の提案や、集客が厳しい現状の中で動画配信をするなどの具体的な取組も知ることができました。また、講話の最後には、「島だち後に与論の魅力を伝えられる様に、今は与論島の色々な海で遊んで下さい。」とのアドバイスもありました。

産業振興課の境さんと市山さんからは与論町の農業生産と林務についての講話がありました。農業生産に関しては、今抱える問題とともに、20代・30代の方で農業を始める方が増えてきていること、また林務に関しては、防風林のお話を中心にその役割や海に囲まれた地形ならではの潮風に強い防風林を選んでいるなどの特徴も教えていただきました。生徒からは「与論町の何割の方が農業に携わっていますか？」など具体的な質問が上がりました。

誇れるふるさとネットワークの池田さんからは、与論島の「拾い箱」の生い立ちや、「プラスチックゴミ」に関する講話がありました。潮の流れや風の力により、漂着する「プラスチックゴミ」の国が違うことや、近年の状況を教えていただきました。また、「拾い箱」の活動が与論島外でも実施されているといった、活動の広がりも知ることができる講話でした。

与論中学校では、今回の講話や体験、対話による学習を通して与論島の過去、現在そして未来を考え、郷土の魅力の再発見へとつながる学習内容に取り組みられています。今回の講話を通し、今後「与論島の今」に関するレポートの作成への取り組みが始まります。

取材：

与論町海洋教育推進協議会事務局

取材日：2020.06.30